

薬草の里

くまの新聞

2020年・秋号

発行
くまの地域
づくり協議会
代表 井上 保英

薬草・ハーブ事業に着手・推進しています

昨年は暖冬で雪の少ない年でしたが、今年は寒い冬になることが予測されています。冷え込みが日に日に増していますが、元気に過ごさされているでしょうか？

さて、私たちくまの地域づくり協議会では、この地で「いきいきとした暮らしがつづく」をスローガンに、次の3つのテーマで活動を行っています。

【一・空き家活用事業】
空き家管理体制の構築

【二・薬草事業】
自生する薬草調査、薬草栽培

【三・交流事業】
人を呼ぶ企画・しくみづくり

夏以降は【二・薬草事業】に着手し、九月には町居地区と日用地区で薬草の分布調査を行いました。（調査概要は裏面に記載）

十月からは、町居地区の2か所に薬草・ハーブを栽培する畑を整備しました。植える作業ではお母さん方に手伝っていただきました。



畑の一つは見本用として、和洋様々な種類の薬草・ハーブを植えています。もう一つの畑は、摘み取りなどの体験ができる畑として用いることを考えています。

またハーブの配布も実施しています。（詳細は裏面に記載）

これらの事業を進め、薬草・ハーブについて調べていく中で、風邪予防やアレルギーの改善、血圧改善、利尿など健康づくりに役立てそうなのが沢山見つけられました。この新聞などを通して情報発信していきます。



◀ 見本園

花壇ごとに「花を楽しむ」などのテーマをつけて寄せ植えします。春は桜の木の下で花見を考えています。

▶ 栽培園

10個の花壇があり、摘み取りなどの体験用にハーブを育てます。



見本園・栽培園の位置

9月19日 薬草分布調査

地域にどんな薬草が自生しているのかを把握するため、金沢大学の薬学博士・佐々木陽平先生を招致し、松尾神社裏山、古民家こずえ裏山、日用地区の3か所で調査を行いました。

調査の結果、薬効のないものを含めて六十種以上の植物を確認できました

山に入るなり「これは〇〇(植物の名称)」「これは食べられる」「これは食べられないけど漢方になる」「名前の由来は…」など、先生の口から次々と植物の情報が出てきて、参加者一同驚くばかり。普段は「ただの草」だと思わな

いものですが、「あの草もこの草も使えるんだ…！」と認識がどんどん変わっていききました。知識があるのとないのでは、見える世界が変わるのだと感じました。



金大 佐々木先生



調査の様子

10月7日 子ども秘密基地づくり

今年は特に家にこもりがちですが、子どもたちに山の中での遊びを体験してもらおうと、能登島でインストラクターを行っている小山基氏(通称:はじめ隊長)と能登島の子供たちを呼んで、古民家こずえの裏山で自然体験会を行いました。

雨予報の日だったため、テーマは「雨宿りできる秘密基地づくり」。間伐材や木の枝など裏山にあるものを自由に使い、チームを組んで、何もないところから協力して形を生み出すことを経験してもらいました。

”はじめ隊長”からは、蛇や蜂が出たときの対処方法や、鍬、縄、シャベルなど道具の使い方など、自然の中だからこそできる学びを教えてくださいました。山は、今も昔も学びの場になると感じました。



空き家管理サービスを検討しています。

皆さんは、家の今後をどう考えていますか？協議会では、空き家になっても売れる・貸せる状態を維持するため「空き家管理サービス」の実施を検討しています。サービス内容は、草刈りや換気、通水、防犯・害獣確認など要望に合わせて金額とともに相談となります。

ご興味のある方は、090-2832-0794(揚見)にご連絡ください。

ハーブの配布をしています



みなさんの庭先でもハーブを栽培し、お茶や料理に使って楽しんでもらいたく、ハーブの配布を実施しています。ハーブの種類はセージ、オレガノ、ローズマリーなど、極力耐寒性の強いものを選定しました。今回はお声がけしてきた一部の方が対象となりますが、ほしいという方には次回配布させていただく予定です。一緒にハーブを楽しみましょう！